



竹下 政孝 (TAKESHITA Masataka)

東京大学名誉教授

東京大学教養学部教養学科 (科学史科学哲学分科) 卒業、
シカゴ大学大学院中近東学科博士課程修了。
同研究科より博士号取得。

東海大学文学部文明学科アジア課程西アジア専攻専任講師、同助教授、東京大学文学部イスラム学助教授、同教授を経て、東京大学大学院人文社会系研究科教授 (1995～2013 年)。

専門分野および研究課題として、イスラム思想史の流れの中で、特にイブン・アラビーに代表される後期スーフイズムの思想をテキストの綿密な分析によって解明するとともに、彼の思想の起源をイスラム哲学や、神学、初期スーフイズムとの関係の中で歴史的に跡付け、また、彼の死後、彼の思想がどのように受容されていったかを明らかにすることを大きな目標にしている。現在、13 世紀のアナトリアのイスラムを総合的に捉え、その中で、イブン・アラビー学派の位置を検討している最中である。そのために、ルーム・セルジューク朝の歴史文献を読んでいるが、特にメウレヴィー教団の聖者伝を資料として当時の宗教と社会の関係を探っている。

主な著書に『イスラームを知る四つの扉』(ふねうま舎、2013 年)。主な論文に、「イスラームの聖者マウラーナー・ジャラールッディーン・ルーミー」(中東協力センターニュース、32 巻 6 号、25-30 頁、2008.2)、「サドルッディーン・クーナウイーのイスラーム哲学史上の位置」(哲学、59 号、61-76 頁、2008.4)、「サドルッディーン・クーナウイーの人間論」(アジア遊学、111 号、2008.5)、「「マスナヴィー」からの物語」(中東協力センターニュース、vol. 33,no. 2、50-54 頁、2008.7)、「イスラームの暦と年中行事」(中東協力センターニュース、vol. 33, no. 5、50-54 頁、2009.1)、「神の友、アブラハムの物語」(中東協力センターニュース、34 巻 5 号、71-78 頁、2010.1) など他多数。